

INTERVIEW

提供：テルモ株式会社

誤接続防止の経腸栄養投与セットに見る医療安全対策

医療消費者が求める医療安全の推進を

「安全に勝るものはない」

津山第一病院・矢田義比古理事長に聞く

「自分は大丈夫」と思っているミスは起きる。しかし医療の現場では、単純なミスが患者の命を奪う大きな事故につながってしまうケースもある。その代表例の1つともいえるのが点滴などの誤接続。流動食が点滴ラインへの誤接続によって血管に入り、患者が死亡するという事例は後を絶たない。こうした数々の事例について、津山第一病院の矢田義比古理事長は「人は必ずミスをするということを前提に、それを防止する手立てを講じなければならない」と強調する。製造メーカーに対して安全性を考慮した製品改良を提案するなど、臨床からの視点で医療安全策を発信する矢田理事長に話を聞いた。



日ごろ、理事長として院内の医療安全対策をどのようにご覧になっていらっしゃるか。

矢田氏 医療安全の問題でいつも疑問に感じるのは、大きな事故が発生した場合、院長先生の多くが記者会見などで、「あってはならないことが起きた。今後の再発防止に向けて職員一同、心新たにして取り組んでいきたい」と異口同音におっしゃることです。

心からの反省と将来に向けた取り組みということで立派だとは思いますが、事故を減らすという点ではあまり役に立たないのではないのでしょうか。マスコミの前で院長先生が述べる反省の弁の多くは、スタッフの心構えであるとか職種間の連携ミスなど、人為的な問題に焦点が向きがちです。もちろんそれも重要ですが、同時にわれわれが日常診療で用いる「道具」の問題にも目を向けなければならないと思います。

たとえば飛行機事故には、事故を教訓にして装置・システムにおいて誤操作・誤動作による障害が発生した場合、常に安全側に制御する「フェイルセーフ」という考え方があります。装置やシステムは必ず故障する、あるいはユーザーは必ず誤操作をするということを前提としたもので、こうした考え方を医療にも取り入れる必要があります。

点滴ラインへの誤接続を防止する栄養セットは、先生がご提案されたものだと思います。

矢田氏 新聞などマスコミ報道を見て、しばしば大きなトラブル・死亡事故につながっている「道具」は3つあると思いました。その1つが栄養セットの問題です。単純であっても栄養セットを点滴へつなぎ間違えれば生命にかかわります。今でこそ誤接続防止の栄養セットが発売されていますが、発売以前は、われわれの病院では接続部分を点滴につなげられないよう既製品の先端を切って太くして使っていたんです。ところが手間がかかるため、しばらくすると現場は旧来の製品に戻っていることがあります。

このようにすぐ点滴につながり、医療事後を起こしかねないし注意喚起しているわれわれの病院ですら医療安全を実現するのが難しい状況です。病院独自で安全対策を常に徹底し続けることがいかに難しいのかが分かります。そこで根本的な対策として、誤接続防止に向けた製品改良を製造メーカーに提案し、ようやく製品化に漕ぎ着けることができました。

その後2000年に厚生省(当時)から点滴への誤接続を防止する栄養セットのコネクタ規格が制定され、現在病院全体の約5割がこうした誤接続を防止する製品に切り換えているとのことですが、この5割をどのようにご覧になりますか？

矢田氏 率直にいうと絶望的です。厚生労働省は行政の責任をきちんと

果たす必要があると思います。医療現場は日ごろから安全に気を付けていると思いますが、仕事のノルマをこなすことに9割以上のエネルギーを費やします。ですから、自分たちだけでこうした誤接続の防止を常に管理し、徹底することは難しいでしょう。

システマティックに全国にまたがる安全対策、たとえばこの規格以外の製品の製造販売を規制するなどの対策を取らない限り、手遅れになりますし、また医療現場からの声が届きにくいというのを待っていても時間がかかりすぎます。

対策としては、まずは製造メーカーで組織する安全対策のチームと、厚生省、そして医療事故のリスクを肌で感じている院長や現場の責任者を交えた話し合いの場を設けることが重要ではないかと考えます。

われわれのような民間医療機関は一度医療事故を起こせば経営が傾くというほどの緊張感を持っています。そのような現場の人たちが加わり、リアルな視点で話し合いをできる場が必要です。

今後の商品化に向けてメーカーにはどのような考え方が必要だと思われますか？

矢田氏 毎日、さまざまな仕事をしていますから、医療現場の者にとっては医療器具の使い勝手が変わることだけで不愉快に感じがちです。

しかし、利便性や単なる慣れといった医療従事者側のメリットを優先するのではなく、むしろ患者の安全性を考慮した製品を考えてほしいですね。

また、何らかのペナルティーを科

すことも必要だと思います。安全性に考慮した製品があるにもかかわらず、危険な製品を売り続けていて何らかの事故が起きた場合にはメーカーサイドに重い責任を科すという仕組みができれば、製造メーカーが安全対策に対して横断的な取り組みを開始するようになるのではないのでしょうか。

ニーズがあるからといって、安全性を考慮していない製品を売り続けるというのは問題です。患者に安全を提供する製品をつくらなければ、製造メーカーも破たんしてしまうくらいでなければなりません。

医療消費者のメリットをいかに考えるかを第一義にしなくてははいけませんね。医療において「安全に勝るものはない」と思います。

ありがとうございました。

TERUMO
人にやさしい医療へ

誤接続防止

栄養ライン
誤接続防止システム

テルフォード
ED

安心の栄養ラインシステム
輸液ラインにはつながりません。
テルモは栄養セットを誤接続防止タイプに統一しました。

販売名：栄養セット 医療機器承認番号：1500082201173
販売名：テルモカテーテルタイプA(点滴) 医療機器承認番号：13B1X00101000004
販売名：100008 医療機器承認番号：2120082200002
販売名：サフールタイプA(点滴) 医療機器承認番号：1500082200883

製造販売業者：テルモ株式会社
〒151-0072 東京都渋谷区幡ヶ谷2-44-1